

## 【活動レポート】2/19 お買いものワークショップをしました(府中国際交流サロン児童学習支援／学習支援サークルくりふ)



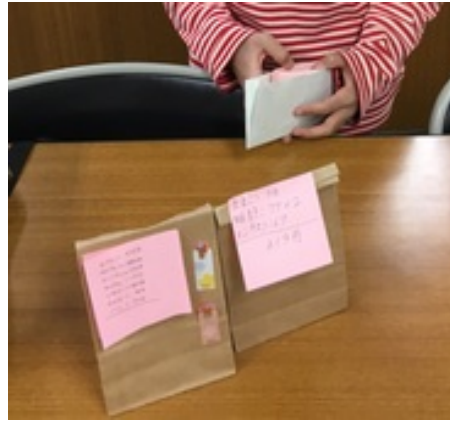
### 〈準備〉

今回のワークショップは、子どもたちが準備した商品やお金を使ってお買い物体験をしてみよう、というものでした。学生はスーパーのチラシやコインのイラストを用意し、子どもたちは分担してそれらを切って厚紙に貼ったり、コインに色を塗ったりしました。低学年の子はハサミを器用に使ってチラシを切り、高学年の子は紙で何種類もの財布を作り、絵が得意な子は商品となるものを描いてくれました。財布とレジの代わりに空き箱にお金を入れ、チラシで作った商品を陳列するところまで、全部子どもたちがやりました。小学1年生から6年生までの15人弱の子どもが参加したのですが、準備段階でもそれぞれが自分の得意を活かして積極的に取り組んでくれたので、想像以上にスムーズに楽しく進められました。



### 〈体験〉

当初は日本語習熟度の高い子が店員役(レジ担当)をしたほうがいいだろうと思い、学生がグループ分けをするはずだったのですが、日本語習熟度の高い子が自ら店員役(レジ担当)をしたいと申し出てくれ、役(店員・客)決めの際に揉めることも一切なく、4人で2つのレジを担当していました。欲しいものをレジに持って行き並んで会計を済ませるという過程の中で、子どもたちは自然と日本語を使い、コミュニケーションをとっていました。レジではレシートづくりをお願いしていたのですが、商品名と値段をひらがな・カタカナ・数字で正確に書いていました。「こんにちは」「ありがとうございます」「これください」「いくらですか」などたくさんの日本語が飛び交っていて感動しました。



## 〈感想〉

正直なところ、学年も日本語のレベルも異なる子どもたちが一緒に活動することはなかなか難しく、うまくいかないかもしれないと思っていました。しかしみんな自分にできることを見つけ、わいわいと作業し、普段日本語を使いたがらない子も自然と日本語を話す場ができていたことに、ただただ感心してしまいました。なによりも子どもたちが協力して活動し、笑顔で日本語を話す姿をみて嬉しかったです。子どもたち同士の関わりの中で学ぶことはたくさんあると思うので、これからも定期的にみんなで1つのことをする企画を取り入れていけたらな、と思います。

(言語文化学部アラビア語2年 宮下優奈)

## 〈参加した学生のふりかえり〉

今回のWSは、最初からモノが用意されているのではなく、準備の作業をみんなでやった点が特に良かったと思います。おしゃべりを楽しみながら取り組む子もいれば、集中して黙々と取り組む子もいてさまざまでしたが、道具の貸し借り時のやりとりや「これ手伝ってくれる？」などの会話に協同作業ならではのコミュニケーションが見られました。準備・買い物実践を通して、子どもが主体的にすることを取り入れると勉強のモチベーションアップにつながるだろうということに気付けた、楽しいWSでした。(1年 中村真子)

準備時間もロールプレイ中も、子供たちが「やりたい」という気持ちから参加してくれていることを実感しました。終わった後に、担当の子が「楽しかった！嬉しかった！」と言ってくれたのを聞いて、自分も嬉しくなり、学習支援をする意味を感じました。また、楽しさ、喜びの気持ちが言語を使いたいというやる気につながるのではないかと思います、普段の勉強の面でももっと楽しさを重視した活動にしたいという反省点も見つかりました。(1年 岩田紗知)

子ども達がそれぞれWSの中でやりたいことを考えて楽しそうに活動に参加していたのが良かったと思います。それと同時に、子ども達が積極的に活動するのを私達学生はどのようにサポートできるのだろうと改めて考えさせられました。個人的には子どもに何か役割があると楽しく学べるのができるのかな、と感じました。(3年 須藤楓)

今回のワークショップは、準備段階からお買い物ごっこに至るまで全行程においていい意味で自由度が高かったと感じました。子どもたちは、塗る、切る、貼る、折るなど自分が得意な役割を率先して引き受けていました。得意な作業でみんなと協働するなかで自然と日本語でのコミュニケーションも生まれていき、みんなの役に立っているという実感は自信につながったと思います。

お買い物ごっこでは、日本語習熟度に合わせてレジ役、お客さん役が自分で選べて、さらに自分たちで工夫してポイントカード制度などを作っている子もいました。

実践的なお買い物の練習ができると同時に、自由に子どもたちが工夫をして楽しめた、とても充実したWSだったと思います。

個人的には、いつも中国語ばかり使ってしまうA君が、自分が折った画期的なお財布のセールスポイント(?)を初絡みのBちゃんに嬉しそうに日本語で詳しく伝えていたのが、とても大きな成果ではないかと思いました(\*^^\*)(1年 岸野彩花)

※なお、次回以降こういったWSを開催する場合は、肉売り場には牛肉を用意するなど、子どもたちの多様な背景も考慮に入れた、準備をしたいと思う、といったふりかえりもあった。

日時: 2016年02月26日